

第4B（中）分科会 —組織・運営に関する課題—

提案主題 子どもの力と意欲の向上に向けた「芯の通った学校組織」活用の推進
～時間・役割・目標のマネジメントを通して～

司会者	大分市立大分西中学校	加地伸二
提言者	大分市立滝尾中学校	生野京子
助言者	大分市立長浜小学校校長	阿部泰三
記録者	大分市立野津原中学校	阿部二郎

1 協議の柱

- ・校長の学校経営・子どもの力と意欲の向上に向けた「芯の通った学校組織」を具現化していくための教頭の具体的役割はどうあればよいか

2 協議の実際

(1) 提言者に対する質問と応答

Q いつ頃からこのように学校全体が意欲的に取り組むようになったのですか。

A 前校長が着任して3年間で意欲的に取り組むようになった。

Q 校長は具体的に何をしましたのですか。

A すべてに関して細かなマニュアルを作った。そして、教頭及びミドルリーダーの先生たちが率先して動き、全教職員が意欲的に取り組んでいった。

(2) グループ討議

- ・教頭の具体的な役割とは、校長や教職員とコミュニケーションを取ることと、凡事徹底の意識付けが必要。また、校長の方針の周知徹底。
- ・「成果」を見出す教頭の役割は、校長のリーダーシップのもと教職員集団がうまくいくように「ほめたり」、時には「強い指導」が必要。
- ・やはり、「芯の通った学校づくり」が目標達成には不可欠である。
- ・滝尾中学校が意欲的に取り組むようになったのは、校長及び教職員が同じ課題意識をもって取り組みができたからである。また、教頭としての役割ができていたからである。
- ・教職員との情報交換の大切さと「率先垂範」が子どもたちを変えることができる。（子どもたちと一緒に膝をついて清掃活動をする等）

3 指導助言

- ・3年間で成果を上げることができたのは、校長のリーダーシップもあるが、教頭とミドルリーダーの頑張りがあったからである。具体的には、教職員が「率先垂範」のもと生徒にかかわっていったからである。（山本五十六の名言を挙げて）
- ・年上の先生方については、感謝しながら責任のある仕事をお願いすることが大切である。
- ・教頭が学校で一番忙しいということはみんな理解している。しかし、なるべくそれを見せないようにしてほしい。「何かあれば行くよ」等たのまれやすい、相談されやすい存在でいてほしい。
- ・本日のような研修を通して、また明日から頑張ろうという意欲が湧いたとすれば成果のある研修であったといえる。体に気をつけて、校長と一緒に頑張ってもらいたい。